

議会報告

◆ 平成28年 第5回定例会 ◆

平成28年12月21日に、平成28年第5回議会定例会が招集され、理事会より提出された7件全ての議案が可決されました。

◆ 可決議案

承認第5号 専決処分承認を求めめることについて（平成28年度黒川地域行政事務組合一般会計補正予算（専決第4号））

承認第6号 専決処分の承認を求めめることについて（高規格救急自動車の取得）

議案第28号 特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例

議案第29号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

議案第30号 平成28年度黒川地域行政事務組合一般会計補正予算（第5号）

議案第31号 損害賠償の額を定め、和解することについて

議案第32号 損害賠償の額を定め、和解することについて

一般質問

質問者

千葉 勇 治 議員
（大郷町）

8,000ベクレル以下の放射性汚染廃棄物に関する処理方針について

◆ 質問

先の議会全員協議会で説明のあった8,000ベクレル以下の放射性汚染廃棄物に関する処理方針について、短時間での説明ではなかなか理解が得られないものと考えます。また県当局の回答も不十分であり、郡内住民の安全性の面からも多くの疑問がもたれる。

当組合のごみ焼却施設での処分並びに、一般廃棄物最終処分場を利用する考えが述べられているが、将来にわたる安全性に関して執行部はどのような検討をされ対応する考えなのか所見を伺う。

◆ 答弁

11月3日に開催された市町村長会議において、村井知事から8,000ベクレル以下の廃棄物の処理の方向性が示されました。県内各地の農家の庭先で保管されている稲わら、牧草等について県内の全市町村が協力し合って焼却処分を行い、減量化に

取り組むとの方針でありました。そのため試験焼却を県内15の全ての焼却施設で行うということで、本組合の環境管理センターにおいても試験焼却を要請されたものであり、焼却方法としては、一般廃棄物に混焼させる方法で、焼却灰を安全なレベルに調整しながら行うというものであります。

当行政事務組合においては、11月21日に議会全員協議会を開催し、直接、県から説明を求め、その後、各市町村の議会において、説明の場があり意見を頂戴し、ごみ焼却施設環境管理センターの所在します大和町吉田地区においては、12行政区を4回に分け、説明会を開催しまして、多くの住民の方々に説明を申し上げ、ご意見をいただいたところであります。「将来にわたる安全性に関して」とのことではありますが、当組合環境管理センターのごみ焼却炉については、ダイオキシン類排出基準値の改正・強化に合わせ、平成11・12年度に「ごみ焼却施設排ガス高度処理施設」の整備を行い、バグフィルター・有害ガス除去装置等が設置されておられ、850℃以上で完全燃焼させ、煙・排ガスから有害ガス除去装置とバグフィルターにより、塩化水素、硫酸酸化物、窒素酸化物、ダイオキシン及びばいじんを除去しております。また、バグフィルターにより除去したばいじん及び有害物質は重金属安定化剤にて薬品処理し、有害物を溶出しないように固形化・不溶化をし、管理型埋立処分場に埋

め立てられており、今回の混焼による放射性物質につきましても、これらの処分方法により安全に万全を期して処理してまいります。

質問者

浅野 直子 議員
（富谷市）

公立黒川病院で産後ケアの充実を

◆ 質問

黒川圏域は、転勤族の増加で、核家族が多く子育て世帯に対する支援は、各自自治体で推進されてきています。しかしながら、出産後の家族の手助けがなく、体調がすぐれない、子育ての不安や孤立感など抱える悩みは様々です。そのような中で、全国で児童虐待に関する報告が多くなりました。2003年～2012年の厚労省の調査で、虐待死した子どもの44%は0才児で生後1ヶ月以内は約2割、加害者は母親で9割との報告をしています。出産後のお母さんと赤ちゃんの心身ケアと育児アドバイスなど支援が出来るように黒川病院で産後ケア事業の推進を求め質問します。

①黒川病院での産後ケア事業について見解を求め質問します。
②日帰り型、宿泊型の支援は、他の地域でも取り組んでいる事例があるが、課題があるのか、質問します。